

日本語の談話の結束性と一貫性の分析

概要

ミタアプリリア

〇八四二〇一二



文学部

日本文学科

マラナタキリスト教大学

バンドン

二〇一二

日本語の談話の結束性と一貫性の分析

序論

談話の中には一連の文があり、幾つかのパラグラフで構成されている。文と文、パラグラフとパラグラフ、又は談話のアイデアは一体とならなければならない。語と語、句と句、文と文が互いに結び合ってまとまりのあるテキストを作り出すことを結束性という。(橋、1999; 56)。一方で、一貫性とはテキストが作り出す世界と深層レベルにある思想概念の構成がお互いにマッチしている。(メイナード、1997; 28)。

結束性は記号を持っており、それは文法的結束性と語彙的結束性である。池上によれば (1998: 63)。

結束性：談話又はテキストにおいて、それが内容的にまとまりのあること(情報の連続性)を示す仕組み。文法的、語彙的手段によって表示することができる。文法的手段としては(1)旧情報の内容を受けてそれを人称代名詞や指示詞で指示する。(2)先行する文のある部分を省略したり他の語に置き換えたりする。(3)接続詞を使用する。語彙的手段としては語彙の反復(下位語と上位語間での反復や同義語の反復)がある。

ところが、語彙的結束性は省略、下位語、上位語、類義語だけではない。その他には連語がある。(ヘッリデー、1985; 312)。

結束性には文法的結束性と語彙的結束性を持っていて、一貫性はない。けれども、一貫性は文化的や社会的な知識などから見られる。池上の定義では（1998：6）。

一貫性：話者どうしが共有する知識などによってもたらされ。発話を結び付ける、又は談話を一つ意味のまとまりとする要素の一つ。語や表現間の関係が文法的、語彙的手段によって示される表面的な結びつきである結束性に対して、一貫性は表面上には現れず、話者どうしが共有する文化的、社会的な知識などを通して発話と発話を関係づけるものである。

本論

1. 結束性

a. 結束するの談話

むかしむかし、あるところにおじいさんとおばあさんが住んでいました。

ある日、おじいさんは山へしば刈りに、おばあさんは川へせんたくに行きました。

繰り返しのおじいさんとおばあさんがあるから、この談話は結束する。

b. 結束しないの談話

それに対して教授は、どことなく元気がない。なんだかぐにやぐにやしている。

「教授、どうしたの？」

しつけ係の美衣がきく。すると教授はひとこと。

「ごはん…。」とつぶやいた。

だれかが「どうして」と質問すれば、一般にある状態を返事するが、これは「ご飯」と返事している。返事と質問は適切ではないから、この談話は
結
束
し
て
い
な
い。

2. 指示

A : これは、だれが忘れた傘ですか。

B : それですか、田中さんが置いていったのです。昨日は、午後 になって雨
が
や
ん
だ
か
ら、持
っ
て
帰
る
の
を
つ
い
忘
れ
た
ん
で
し
よ
う。

この会話の指示は「これ」と「それ」である。「これ」と「それ」は名詞
を
示
し
た
指
示
語
で
あ
る。その会話にあった名詞は忘れた傘である。それでは、
「これ」と「それ」は忘れた傘の指示とすることができる。

3. 省略

A : けさの新聞は読みましたか。

B : いいえ、読みませんでした。

省略しなければ、この会話はこのようになる。

A : けさの新聞は読みましたか。

B : いいえ、けさの新聞は読みませんでした。

この会話は主語を省略する。その主語はけさ新聞である。

4. 接続詞

教授はふだん、掃除をしない。しなくても、ちっとも気にしない。

例文にあった接続詞は「しなくても」で、第二の文がある。～てもは前の
反
対
な
こ
と
を
示
す。

5. 代用

太郎が次郎を殴った。三郎もそうした。

例文の代用は「そうした」である。「そうした」は前の文の「殴った」の語に代わる。

6. 繰り返し

その年の四月に、おれはある私立の中学校を卒業する。六月に、兄は商業学校を卒業した。

例文の繰り返しは卒業である。例文の中に卒業は二回現れる。

7. 類義語

私は中学生の頃から、人生について考えるようになりました。父と母は、働き続けているのに、どうしていつまでも貧しくて苦しいのだろう？
貧乏にあえぐ家庭、病気ばかりしている家庭、幸せそうな家庭。各家庭それぞれに、いろいろの事情があります。

談話にあった類義語は貧しいと貧乏である。貧しいと貧乏は類似の意味があるから、この二つは類義語である。

8. 下位語と上位語

一人の男の子が立っていた。子供の手はしっかりと旗竿を握っていた。

例文の下位語は男の子で、下位語はこどもである。男の子は子供の部分だから、男の子は下位語である。

9. 連語

「帽子をかぶっている」、「靴をはいている」、「上着を着ている」、「香水をつけている」。

この例文は語の対象の連語である。帽子の対象はかぶるで、靴ははくで、そして上着が着るで、こうすいはつけるである。これは日本語の連語の例であるが、ヘッリデーによれば雪と白い、氷と冷たい、男と女、北と南、赤いと緑も対象の連語である（1985；313）。

10. 一貫性

母が死んでから、六年めの正月に、おやじも途中でなくなった。
その年の四月に、おれはある私立の中学校を卒業する。六月に、兄は商業学校を卒業した。兄はなんとか会社の九州の支店に口があって、いかなければならん。おれは東京で、まだ学問をしなければならぬ。

この談話の話題が結び付きから、一連の一貫性がある。話題は家族の状態についてであり、各文の結び付きが強い。

結論

談話の中の結束性と一貫性は大切な要素である。いい談話は深いレベルの結束性と一貫性を待たなければならない。ところが、結束しない談話がある。それは文の構造が前の文に対して適切ではないからである。談話の内容は読者に伝えるために、一貫しない談話は存在し得ることができない。

序論で示されたように、結束性は記号を持っている。談話の中によく現れた記号は指示と繰り返しである。一方で、省略は会話によく現れた。

DAFTAR ISI

KATA PENGANTAR	iii
DAFTAR ISI	vi
BAB I PENDAHULUAN	
1.1 Latar belakang masalah	1
1.2 Rumusan Masalah	7
1.3 Tujuan Penelitian	7
1.4 Metode Penelitian dan Teknik Kajian	8
1.4.1 Metode Penelitian	8
1.4.2 Teknik Penelitian	8
1.5 Organisasi Penulisan	9
BAB II KAJIAN TEORI	
2.1 Pragmatik	10
2.2 Wacana (談話 ‘danwa’)	13
2.3 Kohesi (結束性 ‘kessokusei’)	16
2.3.1 Kohesi Gramatikal (文法的結束性 ‘ <i>bunpouteki kessokusei</i> ’)	18
2.3.1.1 Referensi (指示 ‘shiji’)	19

2.3.1.2 Pelesapan (省略 ‘ <i>shouryaku</i> ’)	22
2.3.1.3 Konjungsi (つなぎ語 ‘ <i>tsunagi go</i> ’ atau 接続の表現 ‘ <i>setsuzoku no hyougen</i> ’)	23
2.3.1.4 Substitusi (代用 ‘ <i>daiyou</i> ’)	26
2.3.2 Kohesi Leksikal (語彙的の結束性 ‘ <i>goiteki no kessokusei</i> ’)	27
2.3.2.1 Repetisi (繰り返し ‘ <i>kuri kaeshi</i> ’)	27
2.3.2.2 Sinonim (類義語 ‘ <i>ruigigo</i> ’)	28
2.3.2.3 Hiponimi (上下関係 ‘ <i>jyouka kankei</i> ’)	28
2.3.2.4 Kolokasi (連語 ‘ <i>rengo</i> ’)	29
2.4 Koherensi (一貫性 ‘ <i>ikkansei</i> ’)	30
BAB III ANALISIS KOHESI DAN KOHERENSI DALAM WACANA BAHASA JEPANG	
3.1 Wacana Tidak Kohesif Tetapi Koheren	34
3.2 Wacana Kohesif dan Koheren	45
BAB IV SIMPULAN	69
DAFTAR PUSTAKA	ix
LAMPIRAN DATA	xi
SINOPSIS	xxiii

RIWAYAT HIDUP xxx